

四日市市立水沢小学校

学校だより

令和8年9月24日 第27号



令和8年度全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック結果について



4月23日(木)、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。また、三重県内の小学校4、5年生において実施する「みえスタディ・チェック」も同日に実施しました。その結果が公表されたことを受け、学力・学習状況についての結果分析等を行いました。その結果分析等に基づいた本校児童の現状をお知らせします

令和8年度全国学力・学習状況調査(6年)からみられる本校児童の現状

◇全国平均値との比較 国語科(+0.1%)、算数科(+0.6%)ともに上回る結果となりました。

◇各教科の結果から見る本校の強み、弱みと考察



教科	結果(強み○ 弱み●)※文章の後の数値は全国平均値との比較
国語	○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる(+10.7%) ○比喩や反復などの表現に気づくことができる(+27.1%) ○話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(+15.6%) ●学年別漢字配当表に示されている漢字(「不思議」を漢字で書く問題)を正しく使うことができる(-22.1% 無回答率15.4%) ●引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる(-25.8% 無回答率23.1%)
考察	○選択肢から適切に選ぶことができていることから、何を問われているのか、問題文の中心を的確に捉えることができていると考えられます。 ●学年に応じた漢字の習得や、文章の中から適切な個所を引用したり、自分の思いや考えを整理して記述したりする力に課題があると考えられます。
算数	○数を四捨五入して、概数で表すことができる(+10.4%) ○単位量当たりの大きさを求める除法(わり算)の式の意味を理解し、その商(答え)から、二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる(+25.4%) ○帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取るすることができる(+17.4%) ●体積の意味の理解について、理解することができる(-17.0%) ●異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できる(-28.6%)
考察	○四捨五入や単位量あたりの求め方、帯グラフの読み取り方など、算数科における知識について、概ね理解し、定着が図られていると考えられます。 ●図形領域については、上記の問題だけでなく全国平均値と同等あるいは下回っている問題も多いことから、面積、体積などの算数用語に加えて、求め方や考え方の理解に課題があると考えられます。 ●通分をすることで大小の判断ができることに気付いても、その理由を説明することが苦手であることから、算数用語や数、式などを用いて論理的に説明する力に課題があると考えられます。

【具体的な取り組み】

- ・ 語句や漢字、四則演算などの基礎的な力や知識については、概ね定着していることから、引き続き、ドリルなどを用いて繰り返し学習することで、継続して基礎的な学力の定着を図ります。
- ・ 自分の思ったことや考えたことなどを論理的に記述する力をつけるために、授業や朝学、家庭学習において、記述問題を解かせる機会を設定します(例えば、国語:作文や書き抜き問題、字数制限を設けた問題など 算数:解答までの過程の説明や記述問題など)。

◇児童質問紙からみる本校児童の特徴

項目	結果(強み○ 弱み●)※文章の後の数値は全国平均値との比較	考察
教科に関する意識	○国語の内容がよくわかる(+4.2%) ○算数が好き(+21%) ●国語が好き(-14.6%) ●算数の内容がよくわかる(-6.1%)	○●教科の学習が好きと内容の理解については、国語と算数で反対の相関がみられました。 ○教師の働きかけや自分自身の学び方、学校に行くことが楽しいの数値が高いことから、学校生活において自分なりの目標を持つことができていると考えられます。
学び方	●自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している(-16.4%)	●教科の分析と同様、論理的に組み立てて自分の考えを伝える力に苦手意識が見られます。
教師の働きかけ・個別最適化	○課題の解決に向け、自分で考え自分で取り組んだ(+1.0%) ○先生は改善点と改善方法を教えてくれる(+3.5%)	●自己肯定感、地域貢献について、なかまや先生など周りの人からの評価とともに、自分の思いや考えに自信を持たせる場面が必要だと考えられます。
自己肯定感・非認知能力	○学校に行くのは楽しいと思う(+7.2%) ○先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う(+8.6%) ※肯定的回答が100% ●自分にはよいところがあると思う(-14.2%) ●地域や社会をよくするために何かしたいと思う(-15.8%)	

【具体的な取り組み】

- ・ 自己肯定感を高めるために、子どもたち同士で褒め合う活動を行ったり、教師から肯定的な声掛けをしたりします。また、授業においても、達成感や充実感の得られるよう、子どもの実態に応じた指導や支援を行います。
- ・ 子どもたちが「地域や社会に貢献したい」と思えるよう、すいざわ学(生活や総合的な学習)、社会科において、地域や社会について深く学ぶ中で、自分事として捉えることができるよう、子どもの主体性を大切に授業に取り組みます。
- ・ ICT 機器の効果的な活用を図るとともに、子どもたちのネットリテラシーを高めます。
- ・ 日頃から子どもや保護者との対話を大切に、安心して相談できる環境づくりを引き続き進めます。また、教員間でも対話を大切に、チームで子どもたちの指導や支援を行います。

みえスタディ・チェック(4・5年生)からみられる本校児童の現状

〈5年生〉

◇三重県平均値との比較

国語科(+4.4%)、算数科(-0.3%)、理科(-0.4%)で、国語科は上回り、算数科と理科は下回る結果となりました。

◇各教科の結果から見る本校の強み、弱み

教科	結果(強み○ 弱み●)※文章の後の数値は三重県平均値との比較	
	強み	弱み
国語	○学年別漢字配当表に示されている漢字(「希望」を漢字で書く問題)を正しく使うことができる(+22.7%) ○故事成語の正しい使い方がわかる(+10.8%) ○物語の登場人物の心情を捉える(+21.1%)	記述問題(無回答率も高い傾向) ●登場人物の気持ちを読み取り、場面と結びつけて想像することができる(-8.0%) ●目的や必要に応じて、資料を関連付けながら、自分の考えをまとめることができる(-3.5%) ●相手や目的に応じて筋道を立てて話すことができる(-8.7%)
算数	○数と計算 乗法、減法、除法の計算、四捨五入について理解できる(+4%~25%)	●折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフの読み取りができる(-15.3%) ●長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を説明することができる(-13~17%)※無回答率9.1%
理科	○月の満ち欠けに関する方位磁針の使い方や記録の仕方などが理解できる(+4~12%) ○天気と気温の変化について、結果を見通して、自分の考えをもつことができる(+3~12%)	●重さについて、測りの読み取り方や重さの知識について理解することができる(-4.1%) ●風とゴムのはたらきについて、ゴムの性質を理解し、事象について考えたり説明したりすることができる(-12.5~26%)

【具体的な取り組み】

- ・ 字数制限を設けた記述問題に取り組む、また、書き始めやおおよその骨組みのヒントを示したり、「なぜなら～」「その理由は～」「～ためである」「例えば～」「つまり～」などの表現の型を示したりすることで、記述するよさを実感させる指導や支援を行います。
- ・ 観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす力を伸ばします。
- ・ 算数科だけでなく、社会科などにおいても、複数のグラフから情報を読み取る力がつくよう取り組みます。
- ・ 立式や解答までのプロセスを言葉で話させたり、文章や図を使って説明できるよう指導や支援を行います。

〈4年生〉

◇三重県平均値との比較 国語科(+4.4%)、算数科(+9.7%)ともに上回る結果となりました。

◇各教科の結果から見る本校の強み、弱み

教科	結果(強み○ 弱み●)※文章の後の数値は三重県平均値との比較	
	強み	弱み
国語	○文章の主語を選択することができる(+11%～17%) ○話し合いの内容を正確に捉えてまとめることができる(+34.2%)	●学年別漢字配当表に示されている漢字(「代える」を漢字で書く問題)を正しく使うことができる(-4.2%) ※三重県全体でも正答率10%を下回った問題 ●話し合いの内容を正確に捉えてまとめることができる(無回答率27.8%)
算数	○数と計算 減法、乗法、除法ともに計算ができる(+12%～22%) ○図形 定義や性質の理解、測定ができる(+16%～27%)	●データの活用(棒グラフ) 読み取りや比較、特徴、傾向を捉えることが苦手(-13%～20%)

【具体的な取り組み】

- ・ 話を聞く際、必要な事柄を記録しながら聞いたり、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点などを質問したりする中で、質問して分かったことを踏まえて形成した自分の考えを表現できるような取り組みを進めます。
- ・ 新出漢字学習の際に言葉を調べさせたり、既習の漢字を使った同音異義語をクイズに出したりするなど、同音異義語の指導、語彙の獲得につながる学習を行います。
- ・ 複数のグラフの中から必要な情報だけを取り出して考えたり、比べたりすることで、データ活用力の向上を図ります。

◇「学習と生活等に関する意識調査」からみる本校児童の特徴

学年	強み ※文章の後の数値は、肯定的回答をした本校児童及び三重県の割合
5年生	自分にはよいところがある(本校83.3% 県82.5%) 学校に行くのは楽しい(本校83.3% 県83.8%) 国語の勉強が好き(本校91.7% 県60.1%)
4年生	学校に行くのは楽しい(本校90.0% 県84.3%) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある(本校90.0% 県79.7%) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる(本校95.0% 県83.1%)

結果分析を踏まえた指導の工夫と改善について

今回の結果を踏まえ、漢字や計算、用語の習得など、基礎的な学力については、定着していると考えられます。やはり、どの学年においても、自分の思いや考え、資料から読み取った情報、解答に至るまでのプロセスなどについて、情報を整理し、論理的に話したり記述したりすることに課題が見られました。日常の授業や学校生活の場面において、取り組みのめあてを明確に提示し、活動の振り返りを通して、子どもたちに「自分はどう考えるのか」「こんな場面ならどう行動するのか」など、子どもたち一人ひとりの考えや思いを持たせることが大切だと考えています。自分の思いや考えを書いたり話したりしながら整理したり、相手の思いや考えを聴いたりすることで、子どもたちの力を伸ばすことにつなげていきたいと思えます。ご家庭におかれましても、子どもたちが自分で自分の思いや考えを伝えたり、自分なりの学習習慣を身に付けたりすることができるよう、引き続き、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

(文責 岡本浩樹)